



# なかまだみんな

横浜市立中和田南小学校

電話 802-0979

## 第三の大人

副校長 丸山 浩司

「クロメダカだ！」4月に本校に赴任して、職員室前の池を覗いたとき思わず声を上げてしまいました。ヒメメダカの中に混じって横浜ではあまり見かけない数匹のクロメダカを見つけたのです。よく観察すると、川エビやドジョウも見られ、毎朝、池を観賞するのがわたしの日課になっています。最近は気温とともに水温も上がり、子メダカが生まれ、だんだんと大きくなり、子どもたちの人気者にもなっています。また、職員玄関の軒下にはツバメが巣を作り、卵を抱えているのか巣の中でじっとしている姿も見られます。近くにも境川、和泉川や田んぼもあり、豊かな中和田南小の地域の自然にふれあうことを楽しみにしています。



この学校に赴任してから疑問に思っていたことがあります。それは子どもたちの下駄箱に入っている靴がいつもきれいに揃っていることです。（写真参考）他の学校ではあまり見たことがありません。もちろん学校やご家庭での指導の成果だとは思いますが、こういう目の届かないところの指導は、なかなか徹底できないものです。

どうしてこの学校ではできているのか…。

本校には「中和田南小学校なかまだみんな運営委員会」が組織され、多くの保護者や地域の皆さんに関わっていただいています。日頃の登下校の安全指導をしてくださる学援隊のみなさんや、校庭の芝や環境の整備をしてくださるみなみ環境ボランティアのみなさん。先日行った5年生の田植えでは、地域コーディネーターを中心とした地域の方々。また、校内でも図書、環境、学習、稲作のボランティアの方々など、数え切れないほどです。

このように本校は、「中和田南小学校なかまだみんな運営委員会」が母体となり、多くの地域学校協働支援ボランティアの方に支えられていると感じています。

以前研修会で、次のような資料（一部抜粋）を目にしたのを思い出しました。

学校の中にボランティアの人が多く出入りし始めると、子どもたちの規範意識が高まるのである。ボランティアの人たちは「第三の大人」である。子どもたちにとって「ナナメの関係」である。学校社会はタテとヨコの関係が強い。ナナメの関係である「外の目」を受け入れることで、子どもたちの中に善悪の価値判断が芽生えるようである。開かれた学校を一層進めるには、多くの人の「目」を用意することである。それによって、ルールとマナー、それからモラルを身につけた子どもの育成が可能になる。

保護者も含む地域のボランティアのみなさんは、親でも先生でもない「第三の大人」であるということでしょう。そして、その「ナナメ」上から目線の教育力が本校に根付いていることがこの学校の特色だと感じています。この中で「子どもたちの規範意識が高まる」と記されていますが、下駄箱の靴の写真は正にその成果を堂々と表しているのではないかと思います。

学校や家庭と一味違う中和田南小の魅力ある地域の教育力に大いに期待しています。